

新春開運堂 本を読んで、人と話し合える場をつくらう! 」

1月24日(土) 天気も心も晴れ。

今年も読書普及協会の1年がはじまりました。パチパチパチ?

司会はこの二人?



山田さんと小野さんです。ステキな笑顔ですね!

自分が、読書普及協会に入会してから

本との出会い、人との出会いで人生は変わる」

ファンではなくプレーヤーになろう」

「100冊の読書より1回の飲み会(笑)」

などなど、たくさんの言葉と出会いました。

そして今回の出会った言葉は

本を読んで、人と話し合える場をつくらう! 」です。



ぼくは、佐伯理事長からこの言葉を聞いて胸に迫る想いでした。

想いを馳せる読書は、ステキな時間ですよ

本を読んだあと、誰かと無性に話したくなる時はありませんか？

きっとその時、本に答えを求めて、自分のためだけに読んでいるではなく

あの人が笑顔になったらいいな～と

特定の誰かに、想いを馳せながら読んでいるのではないでしょか。

想いを馳せる読書は、ステキな時間です。

そうすると、本の読み方も変わりますよね。

答えを求めて読むよりも

「なんだろう？」と問いを持ちながら読むようになります。

ぼくは、今回の宮下さんと佐伯理事長のお話をお聴きして

痛いほど感じました。

この本を読んだのだから乗り越えられる

15年間、ラグビー選手として活躍をしていた宮下さん。

その陰の功労者とは、佐伯理事長だったのかもしれない…。

30歳の時、選手として潮時を迎え、引退を考えていたところ

佐伯さんから進められた本の中に、非常に読解難関な本があったそうです。

腕立て伏せ何千回よりも、この本を読む方が難しい... (笑)」と
思いながらも「佐伯さんが薦めてくれたんだから読もう」と
ガッツで読み終えたそうです。

さすがが体育会系読書家です！

その後、どんな辛い事があっても
読解難関なあの本を読み終えられたのだから、乗り越えられる...。と
自然と思えるようになったそうです。
実践家の仰る言葉は、肚の底にズシンときます。